

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	介護通訳派遣事業	会計	一般会計	事業No.	193	施策順No.	35-004
		事業種別	政策・重点	予算科目	3-1-4-14-6		
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり	課等名			介護高齢課		
施策	35 高齢者福祉の推進	事業期間	開始	18	終了		

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	中国引揚者等で、介護サービスの利用にあたって通訳が必要な者。					A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	中国引揚者	19年度	20年度	21年度	22年度		23年度
意図	介護保険サービスでの、ケアマネジャーによる毎月の居宅介護サービス計画の訪問説明、サービス事業所による各サービス実施計画について説明に、通訳が必要な要介護者とそれを支える事業者を支援する。							
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	利用率 利用者実数/対象者数×100	17	13	4	5	4	5	B
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	従来からの利用者は引き続き利用しているが、新規利用者は大幅には増加しなかった。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	ケアマネジャーの居宅サービス計画説明、サービス事業所の介護サービス計画説明、契約等に、介護通訳が必要となり各事業所等から通訳の派遣依頼があった場合、介護通訳の派遣を行い、支援を行なう。介護通訳の派遣委託事業所(ニイハオ)に委託料を支払う。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	主に中国帰国者対象に介護通訳を行う。申請のあった対象者に介護通訳を派遣し、介護通訳の派遣を提供した委託事業所に委託料を支払う。通訳派遣1時間につき1,000円を、また、月額10,000円の調整費を委託事業所へ支払う。他の外国語通訳が必要な場合も、対応していく。	派遣時間数 利用者実数 利用事業所数	23時間 3人 2事業所
23年度実施計画	主に中国帰国者対象に介護通訳を行う。申請のあった対象者に介護通訳を派遣し、介護通訳の派遣を提供した委託事業所に委託料を支払う。通訳派遣1時間につき1,000円を、また、月額10,000円の調整費を委託事業所へ支払う。他の外国語通訳が必要な場合も、対応していく。	派遣時間数 利用者実数 利用事業所数	25時間 4人 3事業所

3 事業コスト

事業費	(千円)				特定財源内訳、補足事項
	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額		
特定財源	国庫支出金				
	県支出金				
	起債				
	その他				
一般財源		300	133	300	
	計(A)	300	133	300	
	正規職員所要時間				
	臨時職員等所要時間				
	人件費計(B)		0		
	トータルコスト A+B		133		

4 事業に対する市民や議会の意見

--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	安心していきいき暮らせる	施策の成果指標又はムトス指標	安心して暮らせている高齢者の割合
この事務事業は施策の目的達成にどのよう に貢献しましたか	4年間の振り返り	言葉が解らず介護保険制度をできない、という状況を解消する手段はできた。		
	後期に向けた課題	制度の普及を図り、日本語の解らない利用者の不便を解消する。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	事業者連絡会で制度を説明し、事業者側に利用を呼び掛けた。		
	後期に向けた課題	中国帰国者にも利用を呼び掛ける。		
コストを削減するためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	事業者連絡会で制度を説明し、事業者側の利用を呼び掛けた。		
	後期に向けた課題	相対的に経費を削減となるよう、制度利用の呼び掛けをした。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切 でしたか	4年間の振り返り	必要不可欠な事業ではあるが、現状では介護事業者が業務として行うには業務量が少な過ぎる。		
	後期に向けた課題	潜在的需要は大きいですが、利用につながっていないので、更に利用促進を図る。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果た しましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政は どのような働きかけをしましたか、又は、配 慮しましたか	4年間の振り返り	主体は「NPO法人ニイハオ」、日本語の解らない中国帰国者も通訳により介護サービスを利用できる。 行政は介護通訳派遣の費用を負担してきた。		
	後期に向けた課題	主体である「NPO法人ニイハオ」を通じて、日本語の解らない中国帰国者に制度利用を呼び掛ける。 行政は引き続き介護通訳派遣の費用を負担する。		
全体を通じて	4年間の振り返り	制度の普及を図ること自体にも、言葉の壁が支障となっている。		
	後期に向けた課題	中国引揚者に対して直接制度利用を呼び掛ける工夫が必要。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要がありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------